

【梅田朝飯会の中国（紹興、杭州）訪問記】

熊取 賢治

★12/6（木）天候は晴れ。

関西空港を ANA 機で飛び立った我々一行（19 名）は、美味しい機内食をいただき（これで日本食は暫くお預け）約 2 時間半で、杭州国際空港に着。

私は外国旅行は 7 年ぶりですので、入国審査場で緊張してしまいました。（何も悪いことはしてないのに）。今回訪問する紹興も杭州も浙江省のまちです。

専用バスに乗り、最初の訪問都市である紹興（しょうこう）へ。紹興酒であまりにも有名ですね。紀元前 6 世紀の春秋戦国時代の越という国の都であったところ。「臥薪嘗胆」の故事で有名な越王・勾践（こうせん）の都です。

紹興は、作家であり思想家でもある「中国近大文学の父」魯迅（ろじん）の故郷でもあります。ということで、魯迅記念館を訪問し、魯迅の生涯を学びました。来日し、仙台の医学専門学校（今の東北大学）で医学の勉強をした魯迅は、帰国後、文学の道に進み、多くの作品を残しています。

ここ魯迅記念館が最初の訪問地、デジカメ持参の皆さんは、海外旅行の高ぶった気持ちで写真撮影を。私もそうです。

記念館前にはお店で売っているお菓子（名前覚えていません、どなたかフォローをお願いします）、美味しかったですね。

次の訪問は、書道を趣味にされている方は一度は行ってみたいという書法のメッカ「蘭亭（らんてい）」です。

1600 年前の東晋時代の書道家である王羲之（おうぎし）が書いた「蘭亭序」が、ここにあります。

※王羲之：秦・漢代の字体などを研究しそれぞれの字体を行書、草書などと組み合わせ、奔放で力強く優雅な書体特徴的。書道の革命家と言われ、近代書道の体系を作り上げ、後世の書道家達に大きな影響を与えた。

王羲之は、この地に仲間を集め、「曲水の宴」を催しました。その時に作られた詩集の序文の草稿が蘭亭序です。草稿（酒を飲んで書いたそうです）後に何度も清書をしようと試みたが、草稿以上の出来栄にならなかつたと言いつてられています。

※曲水の宴：水の流れのある庭園などでその流れのふちに出席者が座り、流れてくる杯が自分の前を通り過ぎるまでに詩歌を読み、出来なければ罰として盃の酒を飲むという行事。日本では、京都の城南宮の曲水の宴が有名ですが、蘭亭の曲水の宴がその原点。

日本人が沢山訪れるところらしく、土産物屋さんが日本語でねずみの毛でつくった筆ですよ、と売込みが盛んでした。ねずみの毛でつくった筆って、いい物なんですか？ 書道に関心のある方、教えてください。

漢字文化の国の人しか来ないところでしょう。日本人以外に訪問者はあるのかどうか？ そのせいか、入場料は高そう。（でも、参加費に入っているんで、個別支払い無し）

そろそろ日も暮れてきました。

運河で珍しい船（3 人乗り）に乗ってみました。

足だけで櫓を漕ぐ舟です。手は、舵だけにしか使いません。本当に器用な脚遣い。芸術的舟漕ぎです。

雨が少し降ってきました。早く紹興酒工場へ。

日本へは、台湾を経由して紹興酒が伝わり、ざらめ砂糖を入れて飲むには、台湾流だとか。

何も入れずに暖めてそのまま飲めば、本当に美味しい！ 熟成年数が多いほど美味しく、値段も高い。8 年ものと 10 年ものを試飲し、土産に買われた方も。日本には、5 年もの以下の紹興酒しか輸入されていないそうです。やはり、現地で飲むのが最高！

お腹も減り、いよいよ中華料理＋紹興酒で中国気分を満喫。

ホテルの玄関には、「熱烈歓迎、梅田朝飯会一行」の横断幕が。嬉しいですね、この歓迎振りは。ということで、第 1 日は終わりです。

★第2日目（12/7）です。

全行程を通じて、現地の旅行会社の王偉さんが付いてくれます。日本語で詳しく解説してもらいます。金子さんの古くからのご友人で、親切にガイドして下さいます。

紹興から杭州へ移動ですが、まずは「龍門古鎮（りゅうもんこちん）」へ向いました。杭州からは50キロほど離れた杭州の隣の富陽市にあります。

昔ながらの古い街並みが残っていますが、村民の90%の姓が「孫」。三国志で有名な呉の孫権（そんけん）の末裔です。村の入口には、「孫権故里」と書かれています。

入場料を払って村に入りますが、実際に村人が住んでいるところを歩きます。

各建築物群の間は卵石畳の小道にて繋がり、小道は四方八方に通じていて、迷路のようです。

ところが観光客向けのレストランや土産物屋は見あたりません。どうやら街並みの保全に力を入れているようです。

ちょうど昼頃でしたので、人々はお茶碗にご飯とおかずを乗せて、家の外で座って、あるいは立ったままで食事をしています。一人や二人ではありません。我々観光客の目を意識することなく。

明や清の時代の建物が保存されたままで生活しています。何やらタイムスリップしたような気分です。この風景は大事にしていきたいと思いました。

日本人の観光客はまだほとんど訪問しない場所だそうです。日本人の観光客がバスで大量に来るようになれば、きっと日本人向けのみやげ物屋が店をならべて、日本語で呼び込みをするようになるでしょう。そんなことにはしてほしくない場所です。

お腹が空いて来ました。お昼の時間です。

近く中華料理店で、田舎料理的な中華を、これは本当に美味しかった！

午後は、杭州の市内のど真ん中「河坊街」でお買い物です。清代末期の町並みを模した通りです。刃物、中国扇子、漢方薬、茶館、茶葉販売店、杭州シルク、レストラン等々が並び、そこを沢山の観光客が土産物を求めて集まってきました。

ガイド役の王さんの勧めで、私は王星記の中国扇子を土産に7個も買いました。王星記の中国扇子は、杭州名産でブランドなんだそうです。でも、価格は安い！

因みに、中国の通貨は元ですが、1元＝約16円が相場です。1万円を両替した640元もあれば、かなりの物が買えます。

夜は、人気の宋朝文化のテーマパーク宋城（そうじょう）へ。

宋時代の文化をテーマにした民族演芸と歌劇イベントが多数開催されます。舞踊歌劇『宋城千古情』は、杭州ナイトライフの代表的イベントです。ド迫力のオペラ？をみんなで鑑賞です。ただただびっくりしました。踊っている女性のスタイルの良さ、本当に綺麗でした。

夜も更けてきました。お休みなさい。

あす3日目は、杭州朝飯会です。

★第3日目（12/8）です。

朝の7:30から9:00まで、宿泊したホテルで朝飯を取りながらの「杭州朝飯会」です。

ゲスト講演者には、鹿児島出身で中学生の頃から現在に至るまで波乱万丈な事業、生活を送ってこられ、現在はここ杭州にて事業を立ち上げられた、PMK代表の山口康一郎さんにお越しいただきました。履歴書まで配付されましたが、1枚の用紙では書ききれないほどの多くのことにチャレンジ（失敗も多数あり）されている方です。2006年より、ここ杭州で本格的にビジネスを展開されています。日本人と中国人のビジネスに対する発想、取り組み方の違い、特に最近の日本と中国の若者の考え方の大きな相違点についてまず解説がありました。

そのあとの講演内容については、どなたかからご報告、コメントを書いていただきたいと思います。よろしくお祈りします。

その後は、杭州の有名な観光場所へどんどん行きます。

その中心は、やはり「西湖（せいこ）」という名の湖です。西湖の周りには、多くの観光拠点が点在しています。

1. 黄龍洞（こうりゅうどう）

黄龍吐翠は新西湖十景の一つ。西湖の北山棲霞峰の北の麓に位置します。南宋の時代に江西黄龍山の

和尚が寺の建設をしてまわった際、地を揺るがせる音と共に黄龍が飛来し、山岩の一箇所が龍の嘴のように裂け、そこから清らかな泉が湧き出たのだそうです。

2. 六和塔（りくわとう）

杭州市の南を流れる銭塘江のそばに立つ高さ60メートルの塔。

北宋時代に銭塘江の高波を鎮めるために作った祈念塔で、木とレンガを材料に八角七層ですが外から十三層に見えます。塔の上まで昇ることができます（料金：10元）。

足に自信のある数名が階段を昇りましたが、一緒に昇ったY氏は、最後の階段でアップアップ、ホテルに戻ってからシップ薬を貼っていました。

頂上からは、銭塘江とこれに架かる強大な橋が見えます。

※「世界の奇観」と呼ばれる銭塘江の海水の逆流現象は有名。

特に、旧暦の8/18日の大逆流は、すごいらしい。銭塘江の逆流現象は、早く漢・魏の時代から観察され、2000年以上の歴史がある。

3. 霊隠寺（れいいんじ）と飛来峰（ひらいほう）

中国禅宗十刹の一つ。326年にインドから来た慧理が開いた寺で、彼がここは「心霊が隠れ住むところ」と思われ、霊隠寺と名づけられたそうです。巨大な敷地に巨大な仏像、とにかくサイズが大きく度肝を抜かれます。飛来峰は慧理によるとインドから飛んできたもので、もともとは霊鷲山中の小峰だったそうです。飛来峰の山腹には無数の洞窟があり、ここに五代、宋、元の石仏がたくさん彫られています。

4. 花港観魚

西湖の南西の湖畔にあり、西湖十景では「花港観魚」としてその一つに数えられている公園。園内には、数百株の牡丹や芍薬の植えられた牡丹園、金魚や鯉の泳ぐ魚樂園などがあります。

5. 西湖遊覧

杭州市内の中心部には「西湖」という風光明媚な湖があり、中国では代表的な観光地として多くの人々が訪れており、杭州の名所となっています。

遊覧船に乗船。団体客ばかりで、中国語、韓国語、日本語でのそれぞれの団体のガイドさんが説明していますが、その声が重なって船の密室状態の中で響いてきます。

6. あ、そうそう、お茶の博物館（国営）にも行きました。

お茶には、多くの種類（緑茶、黒茶、一番茶、青茶、花茶）があり、それぞれに入れ方を変えないといけないそうです。ここ杭州のお茶は、龍井茶（ろんじんちゃ）という名の緑茶で、日本の緑茶の原点はこれだそうです。高価です。お土産に、お茶を買われた方も多くいましたね。

夜は、高級中華料理店で、杭州忘年会も開催。豪華な中華の品々を頂き、満腹です。

12月のお誕生日の高嶋さんほか1名（計2名）へ、「ハッピーバースデートゥユー！」

超特大のケーキも用意されていて、みんなびっくりです。お菓子は別腹とのことで、食べました。後で、胸焼けしなければ・・・

明日は、いよいよ帰国です。

★最終日（12/9）です。

4日間の旅もうおしまいです。

中国・杭州は、想像していた以上にきれいです。道路にはゴミは落ちていませんし、ドイツなど欧州製の外車が多く走っています。日本製の車より多い！

住居も3階建てか4階建てのおしゃれな家が沢山あります。

中国というイメージ（失礼！）とは全然違うのです。

杭州あたりは高収入の人々が住む地域だそうです。中国を一つのイメージで捉えてはいけないんだろうなあと感じました。

「百聞は一見に如かず」、でしょうか。

ANA機にて2時間弱で関西空港へ帰着。

中国は近いです。

参加された皆さん、お疲れ様でした。お世話になり、ありがとうございました！

改めて、お世話くださった金子さんにお礼申し上げます。